



U.S. GRAINS COUNCIL

米国農務省 WASDE 報告に対するアメリカ穀物協会コメント

2012年8月13日 8月10日の農業需要供給月報において、米国農務省は、米国コーンベルトのほとんどの地域を襲っている生涯一度といえる干ばつがさらに引き続き今年の作柄を悪化させていることから、米国トウモロコシ生産量予測をさらに下方修正しました。

最新の米国農務省予測では、米国トウモロコシ生産量を、昨年を約4,000万トン（16億ブッシェル）下回る2006年以来最低の2億7,400万トン（108億ブッシェル）と予測しています。世界のトウモロコシ生産量は8億4,900万トン（334億ブッシェル）で、昨年から2,700万トン（11億ブッシェル）低下するものの、中国、ブラジル、アルゼンチンの高い生産量のため、2010/2011年よりは1,900万トン（7億4,800万ブッシェル）高くとどまると予測しています。

このような米国トウモロコシ供給の大きな減少による高価格によって、来年の需要に調整が起こると考えられます。米国農務省は、世界のトウモロコシ総需要は昨年より700万トン（2億7,560万ブッシェル）減少し、米国内の国内総需要に限れば2,500万トン（9億8,420万ブッシェル）－飼料利用1,200万トン（4億7,240万ブッシェル）、エタノール需要1,270万トン（5億ブッシェル）－、総輸出は630万トン（2億4,800万ブッシェル）それぞれ減少すると予測しています。米国農務省は、世界のトウモロコシ総輸入は約700万トン（2億7,560万ブッシェル）減少するものの、米国以外での飼料利用の増加は続き、昨年より1,300万トン（5億1,180万ブッシェル）多い4億500万トン（159億ブッシェル）に上ると予測しています。

世界全体でみると、世界の粗粒穀物（主にトウモロコシ、ソルガム、大麦）の飼料利用は昨年とほぼ変わらず6億6,000万トン（2011/2012年は6億5,850万トン）となるでしょう。

米国農務省は、トウモロコシの供給逼迫と来年の高価格に、各国が種々の対応を取るであろうと予測しています。たとえば、日本と韓国の輸入は2011年と2012年と変わらないとしています。また中国の輸入は、主に昨年より700万トン（2億7,560万ブッシェル）

20 F Street NW, Suite 600

Washington, DC 20001

Phone: 202-789-0789

Fax: 202-898-0522

grains.org



エル) 多い2億トン (79億ブッシェル) の記録的国内生産の影響もあり、300万トン (1億1,810万ブッシェル) 減少するであろうとしています。

来年、世界的にはすべてのトウモロコシ利用者が高価格という課題に直面し、生産の効率化、注意深いリスク管理、新たな市場戦略の必要性が増すと思われます。米国内でのトウモロコシ利用予測に示されている通り、この高価格がすべての市場と分野 (飼料、食料、燃料) に需要調整が起こるでしょう。さらに、米国からの輸出の減少が国内利用のそれより小さくなるのは、世界の飼料需要の高い柔軟力を反映しています。

米国のトウモロコシ生産の減少が予測されているにもかかわらず、米国は輸出に対して門戸を開き続けます。来年はすべての輸出国が透明性の高い市場情報の提供と注意深い計画性をもって市場を開放してくださることが、今後1年間を乗り切るために重要です。

農業生産は、政府や生産者のコントロール能力を超えて毎年の天候条件に左右されてしまいます。しかし、農業と食料生産は、基本的に未来を向いて行われます。毎年、希望を持って生産が始められ、そして毎年、与えられた自然環境の下での最大の収穫が得られるように最大限の努力をしています。米国の生産者は世界への穀物供給のため、最良の遺伝品種、技術、管理手法を利用しています。今年の期待に反する穀物を収穫するにあたって、米国生産者は2013年の正常な天候と記録的な収穫高を期待しています。